

■ 形を変えて続く子どもたちの挑戦

社会教育課 社会教育係

桂川町教育委員会では、第6次桂川町総合計画基本構想に掲げる「教育・文化・スポーツ」分野の基本目標である「桂川っ子が健やかに育つまち」を実現するため、子どもたちが自ら考え、仲間と協力し、新しいことに挑戦する体験の場を大切にしてきました。その一つが長年にわたって実施してきた宿泊体験事業「通学合宿・野外体験キャンプ」です。

この事業の原点は平成2年に実施された「ファミリーキャンプ」でした。3泊4日で自然に触れ、家族同士の交流を深めながら、生活力を育む活動でした。翌年からは「通学キャンプ」として、学校生活とキャンプ場での宿泊体験を組み合わせた特色のある形を築き、子どもたちの自主性や協調性を育む事業として発展させました。

活動内容も多様でした。炊事や洗濯など基本的な生活体験に加え、様々な体験活動を取り入れました。かつては生きた鶏を捕まえ、調理して命をいただくという貴重な食育活動も行いました。また、自分の手で

木から箸を作り、その箸で食事をすすめる体験もありました。生活に直結する体験活動は子どもたちにとって強い印象を残したことでしょう。

しかし近年は、新型コロナウイルス感染症の影響や子どもたちの生活スタイルの変化により、従来の通学形式では参加が難しい状況が続いていました。

そこで令和7年度からは、1泊2日の「週末チャレンジキャンプ」として再スタート。対象を小学6年生から小学5・6年生に広げ、通学形式ではなく土日のみの実施とすることで、子どもたちがより参加しやすい事業に見直しました。

今回のキャンプでは、藍染体験を実施し、自分だけの手作りTシャツを完成させました。閉講式では全員がそのTシャツを着て参加し、仲間とともに達成感を共有しました。完成した作品は桂川町文化祭に展示し、地域の皆様にもご覧いただく予定です。子どもたちの学びを地域全体で共有する大切な取組となりました。

また、対象学年を拡げたことで年上の子はリーダーシップを発揮し、年下の子は安心して挑戦するなど異年齢交流の良さも表れました。互い

に学び合う関係は学校生活だけでは得がたい体験です。

自然の中で過ごす2日間は決して長くはありません。それでも、仲間と協力して取り組んだ経験や自分の手でやり遂げた思い出は、子どもたちに確かな自信と誇りを残すと確信しています。

学びの形は時代により変わってきます。しかし、子どもたちの成長を支え、挑戦する心を育むという目的は変わりません。桂川町教育委員会では、これからも子どもたちの生活や時代の変化に合わせながら、子どもたちが新しいことに挑戦する学びの場を守り続けます。

